

## 置戸町秋田の町道の損傷に関する調査メモ（その1）

調査日；2016/9/5（月）

調査者；宮森保紀（北見工業大学）

調査箇所；置戸町（43°44'16.30"N 143°36'40.49"E）

概要；

町道と並行して流れる水路の擁壁が倒壊して、道路の路盤が流出した。擁壁は大型のコンクリートブロックを積み重ねた形式だった。

擁壁倒壊箇所のすぐ上流のボックスカルバートでは背面土が一部流出しており、被災時は水路に相当の流量があったものと推測される。路面からの流水による作用と擁壁下部の洗掘の影響の両方が考えられるが、どちらが主な要因だったかを特定するにはより詳細な調査と検討が必要である。

なお、この町道は訓子府川の左岸に平行しているが、河川からの越水などの直接的な影響は見受けられなかった。



図1 被災箇所全景



図2 道路の崩落状況



図3 ボックスカルバートの背面土流出  
（奥が道路崩落箇所）

連絡先

北見工業大学 社会環境工学科 准教授 宮森保紀

eメール: miyamoya (at) mail.kitami-it.ac.jp